

# 監修のことば

私が杉田陽一郎先生と一緒に仕事をさせていただいたのは、杉田先生が卒後5年目のときでした。「Vスキャンを個人で持っている人」、「PowerPointにまとめるのが上手な人」というふれこみで私の前に現れました。実際に一緒に仕事をしたときのインパクトは今でも忘れません。「巨星現る」、それが私の第一印象でした。「疾患の病態生理への理解」、「個々の症例への莫大な知識量」、「数学を説くがごとく流れるような臨床推論」、「後輩たちへの丁寧な教育」、そして実地臨床をしていくうえでも最も大事な「患者さんへの愛情」など巨星たる所以を挙げると枚挙にいとまがありませんでした。この本が出版される頃には杉田先生は卒後8年目になっていますが、おそらく卒後5年目で、ほぼ本書の内容は杉田先生の中で完成していたのではないかと思います。驚くべきことです。私が本書の監修にまさか関われるとは思っておらず、お話があったときはとても光栄に感じました。

本書を手にとっただけならば、いかに初期研修医をはじめとした若い研修医の立ち位置をよく理解した杉田先生ならではの内容になっているかがおわかりいただけるでしょう。難解な成書を読むことはもちろん大事ですが、あまり時間もない、でもなるべく早く基本的病態を理解したい、そんな若い研修医が「なるほど」と思っただけのような病態生理への解説となっています。また、初期研修医の目線で、研修現場において「今必要な知識や理論」を簡潔に網羅しています。電子版も合わせて販売されるため、ベッドサイド、救急外来、現在必修化となった一般外来研修の現場で、機動力のある、「今この時」から使える書籍になっているかと思います。

杉田陽一郎先生の著書をサポートできたことは私にとって、とても大切な時間となりましたが、本書が初期研修医だけでなく、専攻医や若手医師の皆様の実地臨床にお役にたつことができればとても嬉しいです。

2022年1月

地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院 総合診療内科  
塩尻 俊明